



日高ロータリークラブ

WEEKLY

2025-2026 R. I テーマ

よいことのために手を取り合おう

THE ROTARY CLUB OF HIDAKA

例会日	毎週火曜日	時 間	第1・3週 18:00~19:00	第2・4週 12:30~13:30
例会場	日高市商工会	住 所	〒350-1206 日高市南平沢 1083	日高市商工会館内
事務所	同 上	TEL. FAX	042 (985) 3355	
会長	小坂 雅彦	幹 事	町田 秀雄	会報委員長 犬竹 一浩

第1946回例会 2025年12月9日(火)

2025年12月16日発行 第1731号

本日のお客様

尾木哲人 様(2026~27年度派遣グローバル補助金奨学生)
遠藤貴博 様(志木RC 地区奨学学友・平和フェロー委員会副委員長)

会長の時間 小坂雅彦会長



本日は、グローバル補助金奨学生、地区奨学学友副委員長の2名に御来訪頂きました。どうぞゆっくりと例会を楽しんで行って下さい。尾木哲人様に於かれましては、お忙しい中で卓話を引き受けて下さったことに感謝申し上げます。普段なかなか聞くことが出来ない貴重なお話を拝聴出来ますこと、大変楽しみにしております。当クラブに於いても、今年度はロータリー財団補助金を頂き、「フードパントリー」を敢行する予定であります。12月24日(水)、日高市高麗の郷にて贈呈式を行う運びとなっております。会員皆様、当日は是非高麗の郷へ集合をお願い致します。そして余談にはなりますが、現在インフルエンザ(新型)が猛威を振るっております。テレビのニュース等でも連日放送されておりますが、変異した細菌がワクチン等で得た抗体をすり抜けて体内へ進入してしまうそうです。先日我家でも、私以外(笑)の全員がインフルエンザに罹り、寝込んでしまうという事がございました。どうか皆様御自愛下さいませ。今年の最終例会(12月23日)は年末家族会となっております。皆で楽しいお酒が頂けますように、健康第一で乗り切りましょう!



幹事報告 町田秀雄幹事

幹事より

- フードパントリー贈呈式の案内
12月24日(水) 13時30分～ 於：高麗の郷



卓話

遠藤貴博 様(志木RC 奨学学友・平和フェロー委員会副委員長)

本日は、グローバル補助金奨学生、尾木哲人様のアテンドとして来訪させて頂きました。少しだけ、ロータリー財団委員会からの御報告をさせて頂きたいと思います。よく「ロータリー財団はわかり辛い…」等の御意見を頂きます。ただロータリー財団の活動自体は、大きく分けて3つでございます。1つは、各クラブが奉仕活動で御利用されております補助金プログラム。2つめは、ポリオ根絶を支援するポリオプラス。そしつ3つめが、平和及び紛争解決に臨むリーダーを育成支援するための奨学生プログラムである、平和フェローシップでございます。いろいろな歴史(事情)を経て…本年度より、当2570地区もロータリー平和フェローのホスト地区として参加することになりました。ロータリー平和フェローシップとロータリー平和センターについて少々紹介させて頂きたいと思います。国際ロータリーが担うロータリー平和センタープログラムには、その人材を育てるビジョンがあります。このプログラムは、紛争予防と解決に取り組む平和活動家やリーダーの持続可能なネットワークを育成することです。日本では国際基督教大学で最初の活動を開始し、現在では世界中から応募する平和フェローのうち、アジアで唯一のセンターとして毎年選ばれた50名が2年間学んでいます。以前6箇所だったホストエリアは、2025年に新たに7地域が加わり、合計20名のフェローを支援する体制になりました。これらの地域は、アジアで唯一の平和センタープログラムを持つキリスト教大学の近隣であるという意義深い役割を担っています。当地区がホストエリアに加盟し、初めて受け入れた方が「クリントン・キンメル氏」というアメリカの方であります。キンメル氏は、アメリカのノースカロライナ州にあるウォーレン・ウィルソン大学を卒業、今年の6月までは国際移住機関の一員として、バングラデッシュに7年間従事されておりました。ロータリー平和フェローシップを卒業した後は、また国際移住機関に戻る予定です。フェローシップと、国際移住機関での活動で得た基盤を基に、より戦略的で影響力のある平和構築イニシアチブの開発と実施に貢献することが彼の長期的な目標とのことです。皆様御自身が、平和フェローと深く関わっておられることをご承知おき下さいませ。

尾木哲人様(奨学候補生 2026-27 年度派遣)

～『環境』への貢献を実現したい～

現在、早稲田大学人間科学部にて、酵素・タンパク質の研究に従事しております。来年の9月から、カナダ・ブリティッシュコロンビア大に留学予定となっております。ロータリー財団に於いて、貢献目標とする重点分野は『環境』になります。先刻お話を頂きましたが、私が現在研究しておりますのはタンパク質、つまりバイオケミストリー(生体の中に存在するタンパク質、核酸、糖、代謝化合物などを見つけ出し、その構造や機能を解明する学問領域を指す)という生体科学の分野になります。酵素を用いて、プラスチック分解酵素の研究を行うことで、環境への貢献を実現したいと考えております。



～生体科学の分野へ～

何故私がこういった生体科学の分野に興味をもったか…それは自身の生立ち(幼少期)が関係していると思います。私は、オーストリア・ウィーンで誕生致しました。父の仕事の関係でそうなった訳ですが、0歳～1歳までウィーンで過ごし、その後ポーランドへと移住致しました。それから日本、ドバイ、英国と移り住みました。各国それぞれに思い出はありますが、英国の現地校(Edge Grove School)へ小学校5年生の時に転入した時のことです…。当時はアジア人が少なく(全体で3人のみ)日本人は私1人でした。珍しいのもあったとは思いますが、残念ながら差別的な扱いを受けることもございました。そんな中心配して下さったのか、科学の先生がよく自身の実験室に誘って下さいました。放課後の化学クラブチームに入れて下さったり、ボードゲームに誘って頂いたり、そこで暖かく迎え入れていただいたことが、『科学』に興味関心を持ったきっかけであったと思います。そして日本に帰国後、早稲田大学本庄高等学院に進学致しました。部活は科学部に在籍、大学では極限環境生命科学研究室に入り、極限環境に生息する細菌の研究を行っておりました。こちらの研究室では、人類から微生物まで全生物共通のルーツを探るための生命の起源と初期進化、および、当時の地球環境に関する研究をおこなっております。皆様は『タンパク質』という言葉を聞いたときに、何を思い浮かべますか?運動をされる方などは、『プロテイン』と思い浮かべたりするのではないかでしょうか。本日皆様が召し上がったお弁当の中にも、タンパク質は多く含まれていたと思います。タンパク質というのは、身体の主な構成成分であると同時に、生命を維持するためになくてはならない栄養素で、酵素や免疫物質として働きます。そのタンパク質の構造を知ることで、我々人間が何で出来ているのか…どのように進化してきたのか…を、研究することが出来ます。私はその中でも『酵素』というものに着目して日々研究を行っております。そして私が海外留学を志したきっかけですが、それはカナダのブリティッシュコロンビア大学への短期留学をした経験でした。もともとは短期の語学プログラムでしたが、それとは別に、現地で微生物の研究を行う徳力教授の元で勉強し、研究内容を発表する機会を頂くことができました。ここで様々な経験をさせて頂きました。

～夢の実現に向けて～

私の現在行っている研究について説明させて頂きます。皆様は『酵素』というものを御存知でしょうか?酵素は皆様の体の中にも存在しております。主に化学反応を促進する働きを持つ物質で、人間の体内で起こる消化、吸収、代謝といった働きを調節する役割を担っております。世界中で研究が進み、2024年にはAIを用いたタンパク質の立体構造を予測した研究者がノーベル賞を受賞致しました。そして現在、世界中で海洋プラスチックゴミの増加が社会課題となっておりますが、2016年に日本でプラスチックの分解酵素が発見されて以来、酵素を用いたケミカルリサイクルが世界的に着目されております。自分の研究は、こうした酵素の耐熱性を高め、工場などで活用出来るようにすることあります。最後になりますが…私の夢は、酵素の力を世に広め、社会の役に立つようにすることあります。留学することにより見聞を広め、世界中の研究者と鍛錬を重ね、夢を実現したいと考えております。ロータリークラブの理念が私自身の考え方とも融合しており、このたびロータリー財団補助金を使わせて頂く運びとなりました。カナダでは、現地のロータリアンの方とも交流させて頂きたいと思っております。自分らしく邁進して参ります。ご清聴ありがとうございました。

出席報告	12月9日	会員数	出席数	出席免除	欠席数	出席率	11/23 修正率
	昼間	22	12	2	10	55%	55%

ニコニコボックス報告 12名 合計金額 22,000円 累計金額 214,000円